

『日本人はなぜ貧乏になったか？』正誤表

※以下、お詫びの上、訂正致します。

●P170の6行目以降(第2刷で訂正済み)

×

たとえば、日本でも2008年までの「ドル/円レート」は「1ドル=100円前後」で安定的に推移していたが、このレートを採用すると、アメリカの消費者が1台100万円の日本車を日本から輸入する場合には、「1ドル=100円」なわけだから—日本の自動車販売業者に1万ドルを支払う必要があることを意味している。

そして為替レートが、「1ドル=80円」という2012年秋口までのような円高水準にまで推移したら、このとき、アメリカの消費者が、1台100万円の日本車を日本から輸入する場合、「1ドル=80円」なわけだから、日本の自動車販売業者に8000ドルを支払えばいいことになる。その差は、円高が起こる以前と以後で、日本車1台当たり2000ドル……。

つまり、為替レートが「1ドル=100円」から「1ドル=80円」へと変動した“だけ”で、アメリカは1台1万ドルだった“同じ品質”の日本車を、8000ドルで—いわば2000ドルも安く(!)—輸入できてしまうことになるのである。

これはアメリカの消費者にとってはすごくいいことのように思われるが、日本の自動車販売会社からしてみればかなり苦しい話である。なぜなら、日本の日本車販売会社は、為替レートが20円円高方向に動くだけで—1台1万ドルで売っていたはずの日本車を、1台8000ドルでしかアメリカの消費者に買い取ってもらえなくなり—1台あたり2000ドルの利益が減ってしまう(!)ことに等しいからだ。

○

たとえば、日本でも2008年までの「ドル/円レート」は「1ドル=100円前後」で安定的に推移していたが、このレートを採用すると、アメリカの消費者が1台100万円の日本車を日本から輸入する場合には、「1ドル=100円」なわけだから—日本の自動車販売業者に1万ドルを支払う必要があることを意味している。

そして為替レートが、「1ドル=80円」というまさに2012年秋口のような円高水準にまで推移したら、このとき、日本企業が同じ自動車をアメリカの消費者に売ろうとすれば何が起こるか？ 同じようにアメリカの消費者が1万ドルでこの日本車を購入する場合、1ドル=80円となっているわけだから、日本の自動車販売業者は80万円でしか売ることができないことになってしまうのだ。

日本の自動車販売会社からしてみればこれはかなり苦しい話である。なぜなら、日本の日本車販売会社は、為替レートが20円円高方向に動くだけで—1台100万円で売っていたはずの日本車を、1台80万円でしかアメリカの消費者に買い取ってもらえなくなり—1台あたり20万円の利益が減ってしまう(!)ことに等しいことになるからだ。

●P185の8行目 (第2刷で訂正済み)

- X 結局、為替市場に流入する円の総量が増えるということは、
- 結局、為替市場に流入する円の総量が減るということは、

●P66の10行目 (第3刷で訂正済み)

- X 1975年の論文で、
- 1958年の論文で、

以上